

鳥取県手話言語条例制定 10 周年記念 第 10 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園
予選審査及び本大会出場チーム選考実施要領

1 予選審査会の概要

- (1) 日程 令和5年7月27日(木)及び28日(金)
- (2) 場所 鳥取県庁
- (3) 補足
 - ア 具体的なスケジュールや会場は、後日、大会公式ホームページにて公表する。
 - イ 予選審査結果の発表は、7月28日(金)に行う。
 - ウ イの発表は、公開の上行。また、発表会の様子は、「手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル」(YouTube) 上でライブ中継を行う。なお、発表後、大会公式ホームページに結果を掲載する。

2 審査員

審査員は、ろう者3名及びきこえる人3名の6名とし、このうち1名を審査員長とする。

3 審査方法

各審査員が各チームから提出を受けた予選審査動画を視聴の上、4の採点方法に基づき審査及び採点し、その合計を各チームの審査得点とする。

4 採点方法

- (1) 各審査員が、次の表に掲げる審査項目を担当項目別に採点する。

大項目	小項目	5段階で審査	配点	ろう者	きこえる人	1チーム 当たりの点数
手話言語の正確性・伝わりやすさ	手話言語が正しく表現されているか	1 2 3 4 5	5点	5点	—	
	表現したいテーマにあった手話が使われているか	1 2 3 4 5	5点	5点	—	
	顔の表情や身体全体も使って、演者が伝えたい内容が誰にでも伝わるものになっているか	1 2 3 4 5	10点(5点×2)	10点	10点	
演出力・パフォーマンス度	観客を魅了するパフォーマンスとなっているか	1 2 3 4 5	10点(5点×2)	10点	10点	
	構成や演出が良く工夫されているか	1 2 3 4 5	10点(5点×2)	10点	10点	
	オリジナリティーにあふれているか	1 2 3 4 5	5点	5点	5点	
	高校生らしいひたむきさが感じられるか	1 2 3 4 5	5点	5点	5点	
審査員一人当たりの採点				50点満点	40点満点	
審査員の数				3名	3名	
合 計				150点満点	120点満点	270点満点

※5段階審査基準 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:劣っている 1:非常に劣っている

※審査方法：動画視聴による審査(3分以内)を行い、手話言語の正確性・伝わりやすさと演出力・パフォーマンス度の観点から採点

- (2) 演技等が次に該当する場合は、当該各号に記載のとおり失格又は審査得点から減点とすることとし、審査員の協議（減点の点数の定めがないものは、その点数も含む。）により決定する。なお、協議の結果、意見がまとまらない場合は、審査員長が決定する。

項目	内容
差別的表現、わいせつ表現、特定の個人・団体の誹謗中傷、その他公序良俗に反する内容が含まれる場合	失格
第三者の権利を侵害する内容が含まれる場合	失格
本大会では準備に大幅に時間を要する又は使用（再現）できないことが明らかな大道具、設備、演出等の使用	失格
演技上のセリフや歌詞、手話言語に対応した字幕の表示が不十分な場合	10点減点
演技制限時間（動画の再生時間。3分。）を超過した場合	10点減点
その他、定められた動画の撮影方法に反した場合※	5点減点
その他、不適切と認められた演技又は行為	失格又は減点

※「その他、定められた動画の撮影方法に反した場合」とは、以下のとおりとする。ただし、その違反の程度が軽微で、審査に影響がない場合を除く。

- ・演技者の正面で撮影していない場合。
- ・カメラを固定せず、ズームやワイド等の倍率の変更及びカメラを移動させて撮影している場合。
- ・背景に画像や動画を演出として使用している場合。ただし、画像については、演技の構成上、必要性がある場合は除く。
- ・演技者の全身が表示されていない場合。ただし、演技者の動きがない場合で前後の列となる場合の後列の演技者や着席している場合は、該当する演技者に限って手話言語が見えるよう少なくとも上半身を表示させればよい。
- ・映像の明度が非常に低く、演技者の表情や手話言語がよく見えない場合。
- ・字幕が認識しづらい場合（文字の大きさが非常に小さい、文字色が薄い、背景と同化しているなど）。
- ・字幕を固定して表示していない（文字が流れる字幕表示をしている）場合。
- ・字幕が演技者と重なっている場合。

5 本大会出場チームの選出

(1) 地方ブロック枠（6チーム）

応募チームを所在地別に6つの地方ブロック（北海道・東北ブロック、関東ブロック、中部ブロック、近畿ブロック、中国・四国ブロック、九州・沖縄ブロック）に振り分け、各ブロックで審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出する。

(2) 得点順枠（5チーム以上）

(1) の選出チームを除き、審査得点が高い順に5チームを本大会出場チームに選出する。

(3) 合同チーム枠（1チーム）

(1) 及び (2) の選出チーム以外に、聴覚障がいを対象とする特別支援学校高等部とその他の学校で構成する合同チームの中で審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出する。

(4) 初出場枠（2チーム以上）

(1) から (3) までの選出チーム以外に、これまで本大会に出場したことがないチームの中で審査得点が高い上位2チームを本大会出場チームに選出する。なお、複数校による合同チームの場合は、全ての構成校がこれまで本大会に出場したことがない場合のみを対象とする。

(5) 開催地枠（1チーム）

(1) から (4) までの選出チームの中に開催地（鳥取県）のチームが含まれていない場合に限り、開催地（鳥取県）のチームの中で審査得点が高いチームを本大会出場チームに選出する。

(6) 補足

ア (1)、(3)、(4) 及び (5) の各枠の選考の対象となるチームがなく、本大会に出場するチームを選出できないときは、(3) 枠は (2) の本大会選出チームの数に、(5) 枠は (4) の本大会選出チームの数に加えることとする。

イ (3) 及び (4) の選出対象となるチームは、各チームの申告も参考に、事務局が判断する。

ウ 審査得点が同点となり、順位を審査得点では決められない場合は、以下のとおり順位を決定する。

(ア) 「手話言語の正確性・伝わりやすさ」の審査項目の高いチームを上位チームとする。

(イ) (ア) が同点の場合は、審査員の多数決で上位チームを決定する。

(ウ) (イ) が同点の場合は、審査員長が順位を決定する。

6 本大会での演技順

- (1) 先ず、開催地枠、初出場枠、合同チーム枠の各選出チームの順に演技を行うこととする。なお、各枠の選出チームがない場合は、演技順を繰り上げるとともに、そのチーム数を(2)のBグループに加えることとする。
- (2) 5番目以降の演技順については、(1)を除く11の本大会出場チームを2つのグループに分け、審査得点が下位の4チームをBグループ、上位の7チームをAグループとして、各グループ内で演技順を抽選する。本大会ではBグループ、Aグループの順に演技する。
 なお、当該抽選は、予選審査結果の発表後に続いて行うものとする。

7 予選審査結果の通知及び公表

- (1) 参加申込みチームに対し、予選審査結果(本大会出場又は落選)、審査得点、審査員評(審査員名は非公開)を通知する。また、失格となったチームに対しては、その旨を通知することとする。なお、辞退したチームについては、通知しない。
- (2) 本大会出場チームについては、チーム名及び審査得点を大会公式ホームページに掲載する。

8 その他

- (1) 本大会出場チームの中から、選手宣誓を担当する1チームを選出する。なお、選手宣誓を担当するチームは、予選審査結果の発表時に抽選を行い、決定するものとする。
- (2) 予選の参加申込みを行ったものの、期限までに予選審査動画を提出しなかったチームは、失格とする。
- (3) 予選の参加申込みを行ったチームは、予選審査会の前日までに自由に参加を辞退することができる。この場合、まずは事務局にその意思を申し出るとともに、辞退届を提出すること。なお、本大会出場チームに選出されたチームが本大会の出場を辞退することは、原則として認めない。

【別記】地方ブロックについて

ブロック名	都道府県名	ブロック名	都道府県名
北海道・東北ブロック	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県	近畿ブロック	三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
関東ブロック	茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県	中国・四国ブロック	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県
中部ブロック	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県	九州・沖縄ブロック	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県